

府中ホスピスを考える会通信 第2号 04/4/18



「府中ホスピスを考える会」の活動について

小西 厚子

「考える会」の設立日は、平成14年2月17日です。前年の10月28日の設立準備会では、聖路加国際病院理事長日野原重明先生の講演が行われています。その後の活動歴は、4頁をご覧ください。

この会は、府中市社会教育関係団体の登録とともに、府中 NPO・ボランティア活動センター利用登録団体となっています。グリーンプラザ地下1階にある活動センターの情報交換コーナーにもこの「考える会通信」を第1号から置いていただいています。

今年、府中市が市制施行50周年記念として市民団体事業を支援して下さるとのことで、「考える会」の事業（講演会）を申請して、市から承認されました。予定としては、10月24日（日）に、広く多くの市民の皆様にもホスピスを知っていただける講演会を計画したいと考えています。会員の皆様も講師の先生や演題について、良い企画をご提案して下さい。

今後の「考える会」は、ホスピスについての勉強会を発展させて、私たちの府中市に、身近な所で安心して人生の終末を迎えられる終末医療の場である「ホスピス」を造るための社会活動につなげていく活動も視野に入れていきたいと、役員会では話し合っています。会員の皆様のご意見も伺わせて下さい。

「安心して住み続けられるまち」には、すべての市民に施設や在宅のホスピスケアが用意されていることが必須条件だと思います。

「府中ホスピスを考える会」に皆さまのご支援を

市村 晴子

独立型ホスピス建設の計画があり、日野原先生とご一緒に外国のホスピスを見学に行く機会を得て、さまざまなホスピスの勉強をすることができました。

以来10年にわたりボランティアとしてピースハウス病院のお手伝いをして感じたことは、患者さんが家族の来訪をどれほど心待ちにしているかということです。

自分たちが住んでいる地域にホスピスがあれば、家族が毎日通うことができます。また、それによって在宅での終末ケアも可能となります。そこで府中にもぜひホスピスを作りたいと思い「府中ホスピスを考える会」を有志の人たちとたちあげました。

多くの方々のご協力が必要です。ぜひ皆様のお力をお貸し下さいませ。

声

「ホスピス」という言葉に出会って

荒川 京子

私をはじめ「ホスピス」という言葉を耳にしたのは、今から24年程前のことであった。当時、私の姉が身体の異変に気付き、卵巣癌の末期と医者から宣告を受けた。

元看護婦であった姉は、医療にたずさわった者として、自分の病状を見落して、皆に心痛をかけることを深く詫びていた。余命6ヶ月と診断された姉の病状は、日毎に悪化しつつあること、素人の私にもはっきりとわかり、放射線治療の始まるのと同時に苦しい毎日が続いた。そして、ホスピスに入りたいとの願が大きくなっていった。そして、在職当時の医師、同僚から、浜松にホスピスが出るからそれまで頑張れと励まされながら、最期まで苦しみぬいて49歳の生涯を閉じた。私には当時、ホスピスについて何もわかっていなかった。

その後、1992年某新聞に社会福祉賞の受賞に「ホスピスケア研究会」代表季羽^{きう}倭^い文子^{ぶんこ}さんの喜びの写真と手記がのせられていた。其処にはからずも姉のことが書かれていた。季羽さんと姉は看護学校の同期生で、そこへ、姉は助けを求めたのであった。

「一本の電話がかかって来たのは、1980年のある日だった。…」の始まりで、「意識が途切れ途切れするなか、この苦しみが一人でも少なくなるように、ホスピスをお願い…わかった約束する。それから5時間後同級生は亡くなった、と。…」そして6年後、「ホスピスケア研究所」をつくった。そして、同級生との約束の半分位が…果たせたかな。」と記してあった。

こんな過程を通して、ホスピスの存在を私なりに理解し、「ピースハウス病院」のボランティアに参加し、現在の考える会へとかかわりを持つようになった。ホスピスがもっと広く理解され、我々の手の届く存在になるには、まだ時間がかかりそうな現状。私が「ホスピス」と耳にしてから4半世紀もたったのである。

小沢 幸治

いつの間にか、「いのち」が芽吹いてから80年がすぎている。私のことです。先だったカミさんが小金井桜町のホスピスで「ここ、まるでホテルのようね、よかったわ」といったことが今でも脳裏に焼き付いている。それも、わずか4日間のホスピス生活の中のこと。

入院前、わずかの限られた時間帯、すごい苦しみの中でもベッドの周りで5人の孫たちが走り回るのを見ることができなくなるのが嫌で、いまわの時まで入院を延ばしてきたカミさんでした。

やがて、近づいた時「お父さん、長い間……」……私は、彼女の体温が少しずつ去っていくのを両手で受け止め、彼女の全霊をわたしが引き受けるのみでありました。私こそ「お礼」と「お詫び」をと手に力を入れました。

府中市でも、年に400人、死因は「ガン」です。みんなで葬式の虚礼費用を省けばホスピスはすぐに建ちます。簡単だと思いますが、いかがでしょうか。

一病息災とは—何か1つくらい病気のある人は、その病気を通して主治医の指導を受け、自分も生活に気をつけるので、自然と無理しなくなります。また、持病を持って医師にかかっている人は、受診時に自分では気づかない別の病気を偶然早く発見されることがあります。無病で主治医にかかることのない人は、自信がありすぎて定期的を受診せず、したがって自覚症のあらわれにくい病気(たとえばガン)の発見が遅れたり、自分の健康を過信して無理をするので突然発病することがあります。

一病のある人のほうが、無病で自信を誇っている人よりも、結局は用心して生活するので、かえって長生きするということが一病息災(息災とは「身にさわりのないこと」の意)というのです。

LPC生活医学シリーズより

聖ヨハネホスピスケア研究所主催 ホスピスセミナー資料より

§ ホスピスでの医療費

当ホスピスは厚生省より「緩和ケア病棟」としての認可を受けていますので、入院中の費用については健康保険の適用となります。入院料は1日37,800円(地域によっては150円が加算されます)です。

<聖ヨハネホスピスの医療費> 入院費 1日37,950円 単位:円/日 (2003.4.1)

保険の種類	入院料 (自己負担額)	食事療養標準負担 (食費)
社会保険 本人	11,385 (3割負担)	780
家族	11,385 (3割負担)	
国民健康保険 一般	11,385 (3割負担)	780
退職者	11,385 (3割負担)	
老人医療 (福祉医療)	3,795 (1割負担)	780
それ以外	7,590 (2割負担) (月あたり自己負担上限あり)	
心身障害者医療	0または3,795(月上限あり)	780
被爆者医療	0	0

* ご入院にあたっての1日の自己負担費用は上記の入院料+食事療養標準負担の合計額となります。

<例:国民健康保険の家族(3割負担)で、30日ご入院の場合は >

入院料: 11,385円/日×30日=341,550円

食事料: 780円/日×30日=23,400円

合計 364,950円 となります。

但し、入院料の341,550円は高額療養費の対象になり、月当たり限度額の72,300円(非課税世帯では35,400円)を超える差額269,250円(非課税世帯では307,950円)が、手続きをされると後日返ってきます。

* 非課税世帯で減額証明書をお持ちの方は、食事療養標準負担が650円/日以下の負担になります。

* 部屋代は次の通りです。15,000円/日(8室)

14,000円/日(1室)

13,000円/日(1室)

無料: 個室(4室) 2人部屋(3室)

府中ホスピスを考える会講座実施歴

	日付	テーマ	講師
特	01/10/28	がんと向きあったとき、あなたならどう生きますか	聖路加国際病院名誉理事長 日野原 重明
1	02/02/17	ホスピスの体験から	ピースハウス病院ナース 杉本 真由美
2	02/04/28	在宅ホスピスケアについて	ピースハウス病院ナース 杉本 真由美
3	02/07/14	緩和ケアで使われる薬について	薬剤師(元ピースハウス病院職員) 玉井 照枝
特	02/10/11	アサヒタウンズ特別講演会	聖路加国際病院名誉理事長 日野原 重明
4	02/11/24	心と身体の痛みを癒すには	くらしき作陽大学教授 篠田 知璋
5	03/05/18	地域に密着した在宅ケアについて	平林医院院長 平林 竹一
6	03/06/10	ホスピスセミナー	桜町聖ヨハネホスピスケア研究所長 山崎 章郎
7	03/08/03	ヨーロッパのホスピス事情	府中ホスピスを考える会副会長 市村 晴子
8	03/10/26	家で最期をむかえるために-在宅ホスピスケアの実際	ホームケアクリニック川越院長 川越 厚
9	04/04/18	家族の立場からホスピスケアを見る	府中ホスピスを考える会会員 駒ヶ嶺 泰秀

府中 NPO・ボランティア活動センターより次の企画が届いています。

第1回 情報ネットワーク広場のお知らせ

日時 4月21日(水) 午後2時～4時

場所 府中 NPO・ボランティア活動センター (グリーンプラザ地下1階)

テーマ 「となりのNPOの活動は?～知ることからはじめよう」

活動センター登録団体の情報・意見交換会です。ご興味のある方は、直接センター会場にお越し下さい。

会計より会員の皆様へのごお願い

平成16年度の会費の払い込みをどうぞよろしくお願いいたします。勉強会・講演会等当日でも、郵便局への振込でも結構です。振込用紙ご入用の方は、会計までご連絡いただければお送りいたします。

宇田ひさ子 042-363-9271

編集後記

先日、健康診断の報告書が届きました。普段病気1つせず健康だと思っていた私。結果を見て衝撃!(ガクン) 高血圧、肝機能障害のおそれ・・・健康診断が大切ですね。ということでLPCよりの一文を参考にさせていただきました。(和田)

考える会通信第2号をお届けします。会に対してのご意見、勉強会へのご希望、なんでもご投稿ください。皆様のご投稿をお待ちしています。

「通信」編集委員 荒川京子、小西厚子、滝山満子、村上淳子、和田総一郎

発行元 府中ホスピスを考える会編集部 連絡先 小西厚子 042-351-4583